

## 研究・調査報告書

|   |                     |
|---|---------------------|
| 報告書番号   | 担当                  |
| 178   | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳)   |                     |
| Smoking and drinking habits are important predictors of <i>Helicobacter pylori</i> eradication.<br>喫煙習慣、飲酒習慣はヘリコバクター・ピロリ除菌の重要な予測因子である   |                     |
| 執筆者   |                     |
| Namiot DB, Leszczyńska K, Namiot Z, Kurylonek AJ, Kemon A.  |                     |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日)   |                     |
| Adv Med Sci. 2008;53(2):310-5.  |                     |
| キーワード   |                     |
| 飲酒、ヘリコバクター・ピロリ除菌、喫煙   |                     |
| 要 旨   |                     |
| <p>目的：<br/>ヘリコバクター・ピロリ (<i>Helicobacter pylori</i> : 以下 <i>H.pylori</i>) 除菌における喫煙と飲酒習慣の影響を、両者独立および併合した効果の観点から検討する。</p> <p>方法：<br/>250人の患者を対象とし、以下の3種類の処方を7日間投与した；オメプラゾール+アモキシシリン+チニダゾール (OAT) または、オメプラゾール+アモキシシリン+クラリスロマイシン (OAC) または、オメプラゾール+クラリスロマイシン+チニダゾール(OCT)。これらの除菌療法完了4週間後に CLO-テストおよび組織学的検査にて <i>H.pylori</i> 除菌の効果を判定した。</p> <p>結果：<br/>飲酒はいずれの除菌療法の効果にも影響を与えなかった。一方、喫煙は OAC 群において効果の減弱が見られた (喫煙者 69.6%、非喫煙者 94.3%、<math>p=0.006</math>)。OAT 治療群において喫煙-非飲酒者の除菌率は喫煙-飲酒者や非喫煙-非飲酒者に比べて低かった (38.9%、83.2%、70.0%、<math>p=0.002</math>、<math>p=0.034</math>)。一方、OAC 治療群において喫煙-非飲酒者の除菌率は非喫煙-飲酒者や非喫煙-非飲酒者に比べて低かった (59.1%、100%、91.3%、<math>p=0.01</math>、<math>p=0.012</math>)。OCT 治療群においては喫煙-飲酒による群間での有意差は認められなかった。</p> <p>結論：<br/><i>H.pylori</i> 除菌の効果予測には、飲酒および喫煙習慣の併合影響を考慮するほうがおのおの単独の影響を考慮するよりも有用である。</p> |                     |